

# 任国あんなこと!こんなこと!

☆次回から特集テーマを決めて掲載します。☆  
マニアの投稿大歓迎!!

「インドネシア版-貧乏暇なし」(高垣 泰雄 会員)  
インドネシアにも日本で言う「貧乏暇なし」に相当する成句があり、Singkatan (シンカタン: 頭文字を取った略語のこと)ではBP8というそうです。

これを書くのと以下のとおりです。最初がスペル、次が表音、そして最後が語順どりの直訳です。「Pergi Pagi Pulang Petang Bekerja Pontang-Panting Pengasih Pas-pasan, プルギ パギ プーラン プタン プクル ジャ ポンタンパンティン プンガシハン パスパスン、行く朝 帰る夕方 仕事ドタバタアクセク 御報酬ギリギリ。」別に、P4というのがあって同様に、「Pemimpin Pergi Pegawai Pulang, プミンピン プルギ プガワイ プーラン、上司行く 職員、帰る」というものです。原語では頭韻、脚韻を踏んでいるので、表音でもリズムがあります。うまく訳せませんが、強いて意識すれば以下のとおりかと思われまふ。「朝は朝星、夜は夕星、昼は梅干いただき、朝から晩までこき使われて、いただく給与はすすめの涙。」「(役人の) 上司が出かけりゃ、職員帰る。」

これだけでは、何が面白いのかよく分からないことと思います。調べてみると、公式にBP7とP4というのがあるんです。BP7とは、Badan Pembinaan Pendidikan Pelksanaan Pedoman Penghayatan dan Pengamalan Pancasilaの略で、1979年の大統領決定で組織されたパンチャシラの認識と実践を各層に指導することを目的とした政府機関の名称のシンカタンです。P4とは、Pedoman Pengamalan dan Penghayatan Pancasilaの略で、「パンチャシラの認識及び実践のための指針」で小学校で必ず習うものです。このパンチャシラと言うのは、1945年8月17日に独立宣言を行った スカルノ初代大統領が提唱した建国5原則のことで、①神への信仰、②人道主義、③国家統一、④民主主義、⑤社会正義を言います。

もうお分かりですね。彼らは公式のBP7とP4というシンカタンを文字って、BP8とP4をひねり出して、お堅いお役所からの強力なご指導に対して、ユーモアたっぷりに皮肉を込めて、言葉遊びを楽しんでいたんです。このような言葉遊びを見ると、彼らはしたたかで、また遊び心に富んだ人々だなあと感心しています。

## 横浜市の中心街馬車道通りにある 「たらふく」の紹介

馬車道でまぐろ専門の店を経営している「荒川」さんです。お昼はまぐろ定食600円から販売し、多くのお客が食事に来ています。午後1時を過ぎると定食が500円になります。

夕方からは、いっぱい飲み屋になります。まぐろをつまみに焼酎で一杯なかなかいけます。

本人もJECKの活動に感銘して促メンバーになりました。

もし、横浜の関内周辺に業務できた場合、昼夜問わず寄ってみてください。



住所: 横浜市中区太田町5-61-1 (県立歴史博物館の近くです)  
TEL: 045-662-7209

## 「私のメキシコ体験記・異文化との出会い」

### 第1回~太陽の国・メキシコ (佐藤 満寿哉 会員)

私がまだ現役のテレビディレクターだった1994年春、JICA (ジャイカ・日本国際協力機構) から日本の裏側に近い国・メキシコに派遣されることになりました。メキシコシティにある国立テレビ研修所でのプロジェクトに参加し、テレビ番組造りの強化・指導のためでした。海外には、放送大学での仕事でイギリスで1カ月ほどのロケ、また、同じJICA派遣でTV小説「おしん」を現地語に吹き替えるためインドネシアはジャカルタのTV局へ2カ月ほど行っており、多少の経験はありましたが、今度行くなら今までと違った文化を持つ国へ行きたいと思っていたので、この派遣は渡りに船でとても良いタイミングでした。

メキシコ合衆国は日本の5倍の広さと9千万程の人口で、人種構成は白人10%、メスティーソと呼ばれる混血が60%、インディオが30%といわれており、先住民のインディオは、元はアジアのモンゴロイド系の人種が太古の氷河期にベーリング海峡を渡ってアメリカ大陸に上陸、南下してきて中米や南米に住みつき、やがてトウモロコシなどを中心にした農耕生活へと変化していったようです。

そういえば、メキシコ国内を旅しているとインディオやメスティーソの中に日本の友人に似た顔の人を見つけて、ハッとすることが何度もありました。首都メキシコ市は人口2千万、標高2,200メートルもある高地にあり、着任してしばらくは少し走っても息切れし、その高度を実感させられたものでした。日本のスポーツ選手なども、よくメキシコで高地訓練などをしていました。ここで少しこの国の歴史をのぞいてみましょう。メキシコ最古の文明はオルメカです。そしてマヤ・ティオティワカン・サボテカ・アステカなどの文明が一時を画しましたが最後のアステカ帝国が、1519年、エルナン・コルテス率いるスペインに征服され以後、長い間、スペインの植民地となり、近代には、1845年アメリカと紛争になり最終的には、今のテキサス・カリフォルニア・ニューメキシコ・アリゾナなどの大領土をアメリカに割譲したのです。現在、3千キロに及ぶアメリカとの国境線がありますが私達がアメリカ合衆国をアメリカと呼ぶとメキシコ人は「私たちもアメリカに住んでいます」と言うのです。確かにメキシコもアメリカ大陸にあるのですが……。



そんないきさつからか、メキシコ人の一部にはアメリカ合衆国に好意的では無い人もいます。領土の一部を取られたという気持ちがいまだあるのでしょうか。

しかし、全体的にはラテン系の国らしく、人はいいし、陽気で明るく踊りが好きでとても付き合いやすい人達です。日本人とは相性もいいようです。そして僕は早春のある日、15時間もかけて、未だ見知らぬ「太陽の国」メキシコの地を踏んだのでした。

## 編集後記

横浜JICAの3階。国際協力連絡室にJECKの部屋が出来てから、早4年。さまざまな団体が同じ部屋を足場に活動して来ました。相互の交流も次第に深まると共に、JECKの会員が出入りする事も多くなりました。現在は殆ど、毎週火曜日の午後から、幹事も含めて数人以上が集まり、ワイワイガヤガヤとアイデアを出したり討論をしたり、お互いの専門話を聞いたりしています。そして日も暮れるころになると肩を並べて、今号にも出ている「たらふく」などに出かけ飲み会が始まるようです。

会員の皆様も、ぜひ一度、もっと気楽に連絡室に顔を出してほしいと幹事一同、願っております。

(佐藤)

## JICA帰国専門家連絡会かながわ会報 第7号

発行 2006年12月  
発行者 JICA帰国専門家連絡会かながわ(JECK)  
事務局 谷保 茂樹 (e-mail: Staniho@aol.com)  
横浜市青葉区青葉台1-3-9  
株式会社ティーエーネットワーク内

編集委員会 佐藤満寿哉(編集責任)  
中之崗賢治(代表幹事)、鈴木千明、物部宏之、谷保茂樹  
印刷 横浜リテラ (URL: <http://www.yokohamalitera.com/>)  
(e-mail: [info@yokohamalitera.co.jp](mailto:info@yokohamalitera.co.jp))  
横浜市戸塚区上矢部町2039-2